

# 夢窓幼稚園通信第1号

2022年4月2日



2020(令和4)年寅年卯月、  
新しい年度を、うれしいおむさまの  
光の投げかけの中で、迎える  
ことができました。

しき嶋の  
やまとごころを人とはは  
朝日にはほふ  
山ざくら花

(本居宣長)

園庭の桜は山ざくらではありませんが、桜を前になると  
この歌が浮かんできます。

桜の下で... 桜を眺め...、朝日に照らされ香ぐわしく  
輝く花たちを通して、そこに立つ今年の自分の志を鼓舞  
させます。

あわただしくとも、しっとり ゆっくり ゆったり...!

しばし桜花に包まれ深呼吸して、壺の時間感覚を確認  
リセットをしての新年度です。

この春、目に見える社会の出来事でも変更や変化もありました。

例えば「少年法」が改正、4月1日より施行され、成人が18歳  
に引き下げられました。

18歳...自分のその年はどうだったのかと振り返ってみると、  
——「大人」というものが何を指すのか様々あるでしょうが——  
決して一人前の大人ではなかったと思います。

自分の幼稚園の年長児や小学生の目からすると18歳のお兄さん  
お姉さんはもうすっかり大人で立派に見えたのにです。そして  
今18歳の青年に向き合うと、なかなかなさぞいな!と思います。

例えば18歳にも、深い歴史とドラマが込められているのに  
違いありません。

目の前の、3歳、4歳、5歳...の子どもたち それぞれは  
どんな18歳になるのだろう!?と思います。

結果として そこにつながるひとつひとつが、日々刻々ここで  
展開していると思うと、わくわくします。

\* \* \* \* \*  
夢窓の職員室の屋根についている太陽光発電所(パネル)は  
今年満18歳を迎えました。「成人 おめでとう!」です。  
設置から今朝までに、おひさまとの共同作業で生み出して  
くれた電気は 98,125 kWh — 例えば100ワットの電球  
なら 981,250個を1時間点すことのできるエネルギーです。  
本当に驚くような数字、出来事です。

今の瞬間にも たくさんの目に見える見えない力や働きが注がれ、  
私たちは生かされ、子どもたちも大きくなっていきます。

学校法人むそう学園夢窓幼稚園  
園長 升光泰雄



あんなあ ぼくは おひさまに なりたかたなあ  
だって ひとりで みんなを ほかほかに  
してくれるもの

こんなふうに つぶやく 子どもの かたわらで、  
「ほんとうに 子どもって おひさまが 好き  
なんだなあ」と、思いました。

実際ひなたぼっこくらい、心と身体をなごませてくれ、  
そっと勇気づけてくれるものはないかもしれませんね。

そんな おひさまの 光の力を いただいで の 発電が、  
今日から ここで スタートします。  
たくさんの方々の 思いと 働きの中で、  
いよいよ 点灯の集いを 迎えることができますことを  
何よりうれしく 思っています。

京都ライオンズクラブ50周年事業として、また お一人  
おひとりの あらためての 出会いの中で、ご支援・  
ご協力・励ましをいただきましたことを 感謝申し  
上げます。

「おひさま発電所」をきっかけとして、私たちが今を  
生きる舞台でもあり、時代を超えた「人間」たちの  
身体そのものでもある「地球」を、いま一度深く想い  
めぐらす作業を 今後とも ご一緒に 担い合っていく  
ことができればと思っています。

2004. 1. 17

朝日には おう桜の気分や  
思いが、今の「私」の(やまと)  
心と結びついて、励まされ  
ます。

他者を 夢見つつ、自己を目覚  
めさせる勇気が少し持てる  
気がします。

おひさま発電所点灯セレモニー  
あいさつ文を、もう一度心に  
響かせました。

例えば「これからの18年間の  
たくさんの子どもの育ちや  
人生ドラマが、今ここから  
おひさまや様々の働きに  
見守られ励まされ始まる  
のを感じさせてくれます。

素敵な出会いとよき時が  
つむぎ出されていくことを  
心より願ひ今年度を始め  
たいと思います。

園長 升光泰雄